

- <題材名> いろいろな音色を感じとろう  
 <教材名> 管弦楽組曲「惑星」から《木星》

## ねらい

音色に焦点を当てて曲想と音楽の構造との関わり合いを捉える。いろいろな楽器の音色が組み合わさることで生まれる響きや美しさ、豊かさを味わって音楽を聴いたり、パートの役割を理解して全体の響きの中で音色や強弱などを工夫しながら合奏したりする。音楽をじっくりと聴いてオーケストラの音楽の豊かな響きを聴きとったり、仲間の演奏をよく聴いて音を合わせて表現することの喜びを味わったりすることができるようにする。

## 主なICTの活用方法

- ・Microsoft Teams のファイル共有機能を使い、鑑賞する音楽を部分的に選択して個人で聴くことができるようにする。
- ・「今〇〇をする時間」を電子黒板に示すことで、見通しをもたせる。

## ICTを通じて育成する資質・能力

- ・共有された音源を使ったグループ交流を位置付け、グループで聴きながら「この部分から〇〇と感じたんだよ。」と、音楽の具体的な部分を示しながら自分の考えを伝えたり他者の考え方と比較したりすることで、さらに一人一人の考えが深まる。

## 実践の概要

導入では、ピアノ2台版とオーケストラ版の《木星》を聴き比べ、それぞれの音色の良さを味わった。その上で、オーケストラは、弦楽器、木管楽器、金管楽器、打楽器による合奏であることを確認し、音色や強弱の働きについて聴き取り、オーケストラの魅力を考えていくきっかけとした。

展開では、オーケストラ版の《木星》を聴き、感じたこと・気付いたことを学習プリントにまとめたり、グループで交流したりした。教師は、「楽器の数はどうだった?」「音色はどう変化した?」などと具体的な視点を与えながら、児童一人一人が考えをもった上でグループの交流に参加できるように個別の指導をしていた。

終末では、児童一人一人が、5年生に向けた楽曲の紹介文を書くことで、楽器の音色、強弱、音の重なりなど聴き取ったことと、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさなど感じ取ったことを関わらせながら、オーケストラの魅力についてまとめることができた。

## 児童の学びの様子

○児童一人一人が、自らの考えを学習プリントにまとめた上で、グループ交流に臨み、具体的に楽曲のどの部分のことを話しているかを、Teamsのファイルに共有されている音源で流しながら考えを発表した。部分が具体的に示されたことで、聴いている仲間も、自分の捉え方だけでなく、仲間がどのような音楽をどのように捉えるかについて、自らの考えを広げることにつながった。

○電子黒板には、常に、今どのような活動をしている時間なのかや次の活動等が、示されていたため、児童は、見通しをもって、主体的に音楽科の授業に参加することができていた。



## 指導のポイント

- 児童が聴き取ったことや感じ取ったことを具体的に音楽で確かめる行為は、言語だけのやり取りではなく、音楽と言語を往還させた音楽科としての言語活動をするために、とても効果的である。
- 音楽科のように、得意・不得意がはっきりしている教科において、それでも児童が主体的に取り組むために、見通しをもたせる手立てとしてのICTの活用は有効である。